

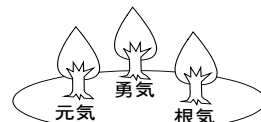
学校だより9月号



三保

本校ホームページアドレス

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/miho/>



令和元年8月29日

横浜市立三保小学校
TEL 045-931-1037

ふわふわ言葉とちくちく言葉

副校長 金子 京子

40日間という長い夏休みが終わり、しんと静まりかえっていた学校に、子どもたちの元気な声が戻ってきました。久しぶりの子どもたちとの再会は、とてもうれしいものです。「元気にしていましたか。」「焼けていますねえ。」「背が伸びたのではないですか。」など、教職員や子どもたちとの会話が聞こえてきます。今年の夏も猛暑日が続き、子どもたちの体調管理が大変だったことと思います。夏休み期間中に、大きな事件事故の報告はなく、無事に過ごすことができたことは何よりです。保護者や地域の皆様が、あたたかく見守ってくださったおかげです。心より感謝申し上げます。

さて、三保小学校では、人権教育の一環として、年度当初に道徳科の学習で「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」を取り上げています。「ふわふわ言葉」とは相手に気持ちのよい印象を与える言葉、それに対し「ちくちく言葉」とは相手に嫌な思いをさせてしまう言葉のことです。これらの言葉を取り上げて学習する主なねらいは、次の通りです。

- 思いやりの心をもって人に接しようとする心情を育てる。
- 相手の立場を考えて、自分の言いたいことを適切な言葉を使って伝えられるようにする。

特に低学年は、「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」の意味を確かめながら学習を進めます。授業のなかで子どもたちから出てきた「ふわふわ言葉」を紹介します。

- ・うまいね ・ありがとう ・さすがだね ・すごいね ・がんばって
- ・やさしいね ・一緒に遊ぼう ・ドンマイ ・お大事に ・ファイト
- ・大丈夫 ・助かるよ

これに対し「ちくちく言葉」は

- ・ばか ・うざい ・ちび ・むかつく

わずか4つの言葉で止めましたが、それは、これ以上書くのが嫌になるほど気分が悪くなってしまったからです。「ちくちく言葉」とは、そういう言葉であると改めて実感しました。

「言葉」とは、本当に不思議な力をもっています。「ありがとう」の言葉をかけられると、やってよかった、またその相手のためにできることをもっとやろう、と前向きな気持ちまでもらえます。「あ・り・が・と・う」という、たった5文字ですが、そこにはそれを発している人の気持ちも一緒に入っているに違いありません。同じように「ちくちく言葉」を考えると、この言葉によりどれだけ相手の心を傷つけてしまうのか、想像することができます。「ばか」「うざい」などという言葉をたとえ軽い気持ちで使ったとしても、言葉を受ける側にとっては、気持ちが荒れ、後ろ向きな気持ちにさせられます。

人は、会話することにより互いの関係が生まれ、深まっていくものです。よりよい関係を築き上げていくために、その会話のなかで「ふわふわ言葉」―「相手の立場を考えた言葉」を使って自分の思いを伝えることが大切です。相手を思いやる「ふわふわ言葉」をたくさん増やしていくことにより、誰もが安心して学校生活を送ることができるような三保小学校にしたいと思っています。

